

育児知識の伝達と 育児言説の変容： 教育社会学的アプローチ

天童睦子（宮城学院女子大学・一般教育部・教授）

教育社会学，女性学，キャリア形成論

資源としての育児情報

育児知識と育児資源：教育社会学のアプローチ 子育て、知識伝達の研究

育児メディアへの着目—親たちの育児戦略の変化、育児言説の生成・伝達のプロセスの分析を通して、育児という日常的営みと社会構造の検討

天童睦子編 2004『育児戦略の社会学：育児雑誌の変容と再生産』

天童睦子編 2016『育児言説の社会学：家族・ジェンダー・再生産』

…子育てをめぐることばの束(言説)の分析

研究の枠組み

知識の種類と日常的知識

ある対象についての実在的な認知にもとづく知識: 学問知、学校知識

ある行為を実際に行う場合の手続き的知識: 処方的・日常的知識

「知識社会学は人間社会における知識の経験的な多様性を研究対象としなければならないだけでなく、いかなる知識体系であれ、それが現実として社会的に確立されるに至る過程をも問題にしなければならない」(P. L. Berger)

バーンステインの教育社会学理論

→ 天童の問題関心 専門的知識と日常的知識を結びつける理論的可能性

B. Bernstein (英国の教育社会学者) ミクロとマクロの統合理論・・・家庭内での社会化過程—フォーマルな学校教育
シンボリックな権力と統制の理論的説明

☆ 知の往還

学問的・専門的知識 ⇔ 日常的・生活実践から立ち上がる知識



育児戦略 3つのレベル

マクローメゾーミクロ (図 参照)

育児戦略:

育児の担い手である親の産育意識、しつけ方、教育投資といった育児意識と行為の総称

親自身にも明確に意識されない、社会に構造化された暗黙の戦略

国家、行政、市場の諸局面において展開される、子どもをめぐる政治的・経済的・文化的戦略

「日常的な育児行為のレベルから、社会構造的レベルまでの貫くトータルな分析枠組み」の提示(天童 2004, 2016:23)

〔社会構造：階級・ジェンダー関係〕
マクロレベルの育児戦略
政治・経済・文化構造
市場、教育、家族構造

国家・行政レベルの再生産戦略
家族政策、少子化対策、子育て支援
育児・教育の市場化・商品化

権力
(類別)

メゾレベルの潜在的育児戦略
半構造化された再生産戦略

統制
(枠づけ)

ミクロレベルの育児戦略
個人の育児意識
子ども観、しつけ観
教育期待
日常的育児行為

ジェンダー意識
〔精神構造・アイデンティティ〕

知識の生成、伝達、獲得という視点から何が見えるか

育児言説(育児をめぐることばの束)

多様化する育児メディアが映し出す子育ての現在

だれのための知識か 何のための伝達か

標準とされる育児法の社会史的変遷と背景

健康管理と養育・しつけの言説・・・育児メディアの展開過程から見えること

母子手帳の社会史：誕生期

先行研究の整理①(小柳 2011 育児法の形成過程)

日本の母子保健行政－母子保健言説の変容

1942(戦時下)妊産婦手帳制度 開始

国による保健衛生管理システムの整備と科学的育児法の提供

妊産婦手帳→体力手帳と接合 1942改正国民体力法

健民健兵策の延長、人口増強 国家的再生産戦略

1947(戦後)厚生省に児童局新設 児童福祉法制定

☆福祉的視点による母子衛生対策

母子手帳にみる「育児の心得」

「愛情と正しい知識とをもってこどもを育てることが大切です。母親も父親も祖父母も、家族の人たちがみんな気を揃えて育てましょう。正しい育児の知識を得るためには、保健所に相談したり、医師や保健婦に聞いたり、本を読んだりしましょう。」(母子手帳 育児の心得 1950)

⇒ すでに育児書からの情報入手を薦めている

内容: 発育 健康相談 栄養 人工栄養 養護 しつけ 病気の予防
予防接種 歯の衛生 子どもを育てる(のにお困りの方の相談方法)

記述の変化：規則か自律か

しつけ・・・添い寝 授乳 抱く 一人遊び

「母乳主義」「授乳リズム」

規則的授乳 「大体きまった時間に十分にお乳をのませましょう」(母子手帳 1950)

⇒泣けばすぐすわせるのはいけないが、時間通りの授乳も正しくない
(副読本 1964)

専門的知識の内容においても議論があった

「子ども主体」の育児への転換(品田 2004)は60年代にはその萌芽

正当育児をめぐる

育児のスタンダード(標準的育児・正当育児)の生成と変容

戦後日本の規則的授乳法の推奨－戦後の母子衛生管理システム GHQの指導による構築－アメリカの育児法(とその変化)の影響

規律に従う厳格なしつけ(キリスト教的育児文化)→子どもの欲求にそって授乳する自律授乳法へ 1940年代ころアメリカの育児意識・方略の変化(スポック博士の育児書(1945 日本語訳は1966年)厳しいしつけから受容型へ

日本 授乳法で小児科医、専門家の議論の対立もあった(1950年代)



垂直的知識と水平的知識(天童 2016)

☆科学的育児法として専門家による垂直的知識の伝達が行われる際にも、なにを「正当知識」とするかをめぐる議論、葛藤、選択がある

母子健康手帳の伝達方略： 記録欄

なにを、いかに伝達するか

先行研究の整理②(元橋 2014 「男女共同参画」時代の母親規範)

1) 副読本にみる「父親の育児参加」 90年代～

2) ツールとしての母子健康手帳

伝達方法の変化：書き込むという行為形成

事実(名前、体重、症状、客観的に明らかな内容)と、認識(胎動を感じた時の気持ち、誕生日のメッセージ…)

母子健康手帳 「読ませる」から「書かせる」項目の増加傾向を指摘

親に自らの育児を振り返り内省させるプロセス

日本の育児メディアにみる育児言説の変容

垂直的知識から水平的知識へ

先行研究の整理③(天童編 2004,2016)

専門的・学術的研究に裏打ちされた啓蒙的知識の平易な伝達、メディア媒体 育児書(1960年代) 育児雑誌の登場 1970年代

医療、発達 of 専門家によるわかりやすい解説(知識は学術知)

→「共感型」育児雑誌ブーム 90年代新規参入の出産・育児雑誌 市販の育児メディアに表出する母親たちの育児の現実: 孤立、ストレス、不安←本音の吐露、楽しむ育児 啓蒙的より共感的

ヴィジュアル化、読者親子の写真多用、隣のママの育児の本音(垂直的知識から水平的知識の伝達媒体へ)

育児メディアに見る戦略の変遷

年代	育児メディア	育児言説	社会動向
戦後～ 1960年 代	育児書の大衆化—ス ポックと松 田道雄	科学的育児法 垂直的育児知識	人口転換・少産少死 近代家族の大衆化 都市型ライフスタイル
1960年 代後半 —70年 代	育児雑誌の 登場期 『ベビーエイジ』 『わたしの赤ちゃん』	母親のしつけ責 任の強調 父親の協力的 育児の要請 科学的育児知 識の平易な伝達	1968年 学習指導要 領改定 高校家庭科 「女子に家庭一般を 履修させるもの」 メリトクラシーの 広がり

年代	育児メディア	育児言説	社会動向
1980年代	妊娠・出産情報誌の登場 『マタニティ』 『Balloon』	「産む私」の主役化 母親の悩み誌上共有 母親の育児不安 水平的知識の伝達	晩婚化・晩産化の進行 男女雇用機会均等法成立
1990年代	読者参加・共感型の育児雑誌の興隆 『たまごクラブ』 『ひよこクラブ』	楽しむ育児・本音の育児↔育児の重圧 「育児は夫婦で」 「父親も育児」の声の高まり	育児休業法 男女共同参画の潮流 少子化の社会問題化、子育て支援政策
2000年代～	父親・家族向け育児雑誌の登場 育児メディアの多様化	家庭の教育力 父親の育児参加 教育する家族 正当育児の変容	グローバル化 家族格差 自己責任の強調 ペアレントクラシー SNS普及

資源としての育児情報

育児メディア（育児書、育児雑誌の登場と興隆）

☆主な読書層である母親たちの、子どもの健康、しつけ、教育への配慮と関心の高まりが大衆化

☆親族ネットワークや地域のパーソナルな人間関係を通じた育児情報の入手に替わるメディア

☆育児資源の代替的機能

育児資源：育児行為に直接投入される財や時間、育児に関する知識・情報、子育てをサポートする人的資源 = 育児という営みを支える経済的・文化的・社会関係的資源を指す（天童 2004: 61）

育児メディアの興隆と母の孤立

かつての親族・近隣ネットワークが機能不全に陥りがちな現代社会—代替物としての育児メディアを通じた育児知識と情報の入手が、育児資源の獲得戦略上の重要な方途

とはいえ、都市部でも90年代末には「育児知識・情報を得るのに役立ったもの」上位3つの計(複数回答) 親や親せきから 70% 育児書、育児雑誌 69% 近所の人から37% 医者・保健師から 29% 弟妹の世話の経験 25% とパーソナルな人的資源と自分の経験という実践知識があった(首都圏 1600組の幼稚園児をもつ父母対象の質問紙調査 天童編 2004)

育児メディアの多様化

2000年代 1)教育戦略(親の階層分化 能力開発志向 父親を含む) 2)ファッション志向(育児する私の主役化) 3)働くママ向け(ビジネスウーマンの母親) 4)脱市場化のライフスタイル 5)90年代「共感型」育児雑誌のオーソドックス化

「育児情報が役立つときと惑わされるとき」の二面性はすでに指摘・・・ 育児雑誌利用の母親 「はじめての育児の戸惑いを安心感にかえてくれる」 「自分の子育てが(育児書や雑誌の)記載通りにならず不安になった」

2010年代 育児知識の伝達媒体:SNSの普及

パーソナル・メディアー正当知識の偏在？

幼い子どもをもつ母親への育児メディア調査(2020)では情報入手に育児書・雑誌3割、SNSを利用8割との結果

初めての子育て スマホ情報 「入手の即効性」「見れば見るほど不安になる」との声も(母親インタビュー 2021)

おわりに

だれのための、なんのための育児知識と情報なのか

信頼できる育児知識、育児情報の吟味と提供は重要(デジタルであれ紙であれ)

ペアレントクラシー時代(親の責務の過度の強調)の育児の困難を乗り越える

子どもを社会で育てる 知識伝達の社会的・文化的基盤の充実とネットワークの生成へ

引用文献(報告登場順)

天童睦子編 2004『育児戦略の社会学－育児雑誌の変容と再生産』世界思想社

天童睦子編 2016『育児言説の社会学：家族・ジェンダー・再生産』世界思想社

小柳康子 2011「わが国における育児法のスタンダードの形成過程－母子健康手帳の変遷を通して」『福岡大学研究部論集』B4, 13-31.

品田知美 2004『〈子育て法〉革命』中公新書

元橋利恵 2014「『男女共同参画』時代の母親規範－母子健康手帳と副読本を手がかりに」『フォーラム現代社会学』13, 32－44.